

特許昭60-223441

POWER SOURCE FOR PRIMARY AND SECONDARY BATTERY

PUB. NO.: 60-223441 [JP 60223441 A]

PUBLISHED: November 07, 1985 (19851107)

INVENTOR(s): ICHIKAWA MASAHIRO

APPLICANT(s): ICHIKAWA MASAHIRO [000000] (An Individual), JP (Japan)

APPL. NO.: 59-077880 [JP 5477880]

FILED: April 18, 1984 (19840418)

INTL CLASS: [4] H02J-007/00

JAPIO CLASS: 42.9 (ELECTRONICS -- Other)

BEST AVAILABLE COPY

④日本国特許庁(JP)

①特許出願公開

④公開特許公報(A)

昭60-223441

S4Int.CI.

H 02 J 7/00

識別記号

序内整理番号

H-8123-5G

④公開 昭和60年(1985)11月7日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

発明の名称 一次電池と二次電池併用の電源装置

②特 願 昭59-77880

②出 願 昭59(1984)4月18日

発明者 市川 雅英 東京都墨田区本所1丁目13番11号
提出人 市川 雅英 東京都墨田区本所1丁目13番11号

BEST AVAILABLE COPY

四 増 収

第一回 増収

一次電池と二次電池併用の電源装置

第二回 増収

この電池の充電性を二次電池に電気エネルギーとして充電し、蓄電した電気エネルギーを電気機器に、長期的に使用する。この電池は一次電池と二次電池併用の電源装置。

第三回 増収

この電池は、一次電池の蓄電作用を二次電池に電気エネルギーとして蓄電して、蓄電された電気エネルギーを電気機器に、长期的に使用することを目的としたことにある。

この電池は電気エネルギーを充電するのに電源設備がある。この電池を運んで充電しなければならなかったのである。これが不便な点であることで一層にその不便を解決したのである。

これを自動車によって取締りながら、第一回と第二回は、家庭の交流電源を電気エネルギーにして二次電池に充電をし、それを貯蔵して電気エネルギーとして充電したのである。

また、第三回は太陽電池の場合は光エネルギーを直流の電気エネル

使用したのである。

第三回は本発明を示したので、一次電池の発電エネルギーを逆流防止ダイオードを通して二次電池に充電をし、それを貯蔵して放電用として活用したのである。

今回の実施例に用いた一次電池は、鉛酸電解液用のアルミ極板材電池である。(一次電池としては一般的に次のようものが知られている。)(1)亜鉛粉酸空氣電池2アルミ複板空氣電池3硫酸電池4一次電池の乾電池等)。

この一次電池の構成は、極板材にアルミニウム板を使用し、隔離材にはカーボン板を使用した、電解液には硫酸と硫酸を適当に混合し、それを水で再び使用したのである。起電圧は1セルヨリ1.35Vであるから、これを直列に接続し高電圧を得てカリニカ蓄電池や鉛蓄電池等の二次電池に電気エネルギーを充電し、放電しながら使用したのである。

このように一次電池と二回電池を併用して使用するならば、最高に対して非常に安定した電気エネルギーを出すことができる。

これ蓄電された電気エネルギー源を次のような電気器具に使用すれば最大の作用効果が得られる。

例えば、移動機器や固定機器としてレジャー・関係、キャンピングカー・関係、屋外広告看板関係、張り棒看板関係、溝中海上地

中で使用する電気機器関係、蓄電用関係、その他電気製品。

切西の構成を説明

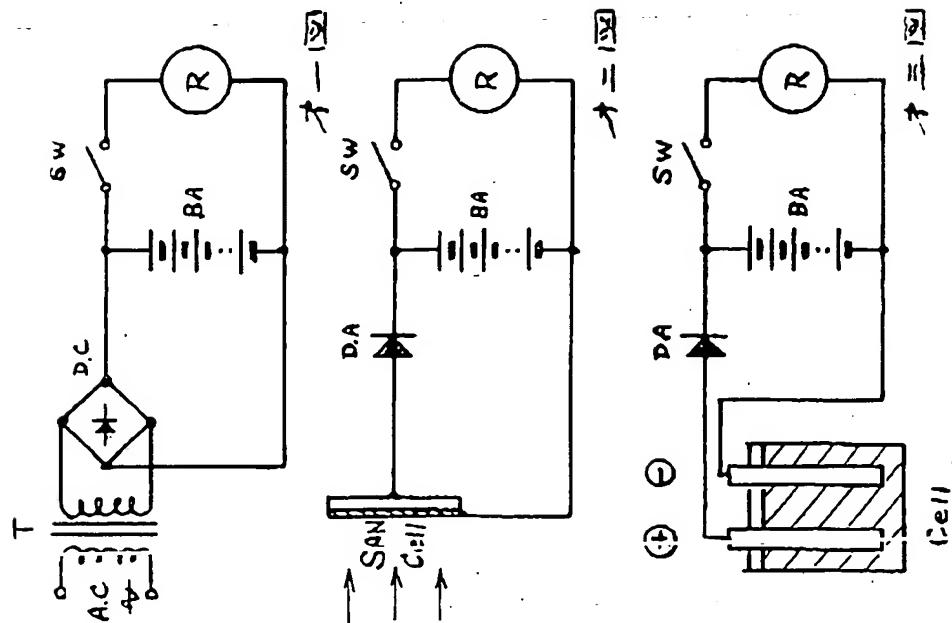
第一回は交流電源を直流電源に変換し二次電池に充電しながら負荷に放電するようにした電気回路図。

第二回は太陽電池から発生する直済の電気エネルギーを、二次電池に充電しながら負荷に放電するようにした電気回路図。

第三回は一次電池より発生する電気エネルギーを逆流防止ダイオードを通し、二次電池に充電しながら負荷に放電するようにした電気回路図。

特許出願人 市川雅英

(3)



BEST AVAILABLE COPY